

定例市長記者会見

日 時：5月26日(金) 午後1時30分～2時

場 所：本庁舎14階 1402会議室

出席者：一宮市 中野市長、福井副市長

報道機関 中日新聞、朝日新聞、読売新聞、NHK

本日の案件は3つです。

1番目は「アメリカ合衆国女子シッティングバレーボール代表選手交流事業」です。

この度、東京2020パラリンピック優勝・金メダルの代表チームをお迎えすることになりました。もともと東京2020パラリンピックの時に一宮市は米国代表のホストタウンでしたが、コロナの影響で実際に代表チームが一宮市まで来ることはありませんでした。チームは金メダルを取り、その時にはオンラインで会議や祝勝会もやり、コロナが落ち着いた際にはぜひお越しくださいと話していました。そこで7月の終わりに来ていただけることになり、現時点では選手3名と監督・コーチ1人ずつの合計5名で準備を進めています。

事業内容の「1 シッティングバレーボール交流」は、7月26日午前に総合体育館のいち信金アリーナで、午後には稲沢市の豊田合成記念体育館エントリオで行います。このプログラムは、バレーボールVリーグで日本一になられたウルフドッグス名古屋さんに全面的にご協力いただきます。

シッティングバレーは、床にお尻を付けて行うバレーボールです。今回は、金メダルのアメリカ代表チームとの交流で、小学生以上が対象ですので、幅広く市民の方にお申し込みをいただければと思います。その他、選手・コーチによる市長訪問なども予定しています。

次に「2 中学生との七夕交流」で、これは中学生の国際交流事業です。コロナの影響で中止する2019年まで、市内の中学生1名ずつ計19名程度が、ベネトンの本社があり繊維産業が盛んなイタリアの都市トレビーズに行き、トレビーズからも観光の専門学校の生徒が一宮市に来るといった交流事業を行っていました。今回、国際的に意欲のある中学生の活躍の場として、アメリカの金メダルチームに七夕まつりについてプレゼンテーションするという交流事業を企画しました。

2番目は「辰巳琢郎スペシャルトークショー」です。

これは七夕まつりのイベントになります。今年の七夕まつりは久しぶりにフルスペックでほぼコロナ前の状態に戻すということで関係者一同準備を進めているところです。

広報一宮6月号にも掲載していますが、七夕まつりに、ワインや食のスペシャリストとしても知られる辰巳琢郎さんをゲストにお迎えして「いちのみや野菜プロジェクト(138・831)」として、この地域のいろいろな食を盛り上げていただくという企画です。

イベントは、7月30日(日)夕方にi-ビル7階シビックホールにて定員300名で行います。内容は、辰巳琢郎さんから「魚は白、肉は赤、では野菜は？」をテーマに講演いただき、

その後、私をはじめレストラン・調理関係者に参加いただいて、この地域の野菜食が盛り上がるような企画を準備しているところです。盛り上がることを期待しています

3 番目は「令和 5 年度 6 月補正予算（案）に計上された主な事業」です。

私からは主なものを抜粋して説明させていただきます。

No. 1 「入院医療費の無償化を 18 歳まで拡大」

2015 年に市長に就任し、翌年 2016 年に子ども医療費を 15 歳まで通院・入院問わず無料にしました。今回は、入院医療費に限り対象を 18 歳まで拡大するというものです。

No. 2 「BISHU FES. 支援事業費の増額」

11 月に開催予定である BISHU FES のメインイベントは東京ガールズコレクション (TGC) です。メイン会場との調整により、開催時刻を夕方以降に遅らせたことで、来場者の安全確保として照明設備や警備体制を強化するため 1,000 万円を増額計上しました。

No. 3 「弁護士料」

救急搬送した際の処置について、市（消防分）への損害賠償請求に対する弁護士への成功報酬として 242 万円計上しております。

No. 4 「医療過誤に係る損害賠償金」

市民病院の医療過誤について、裁判外での和解となりましたが、市の責任ありということで 300 万円お支払いすることとなりました。当初予算での損害賠償金の枠 50 万円に上乘せする金額として 250 万円を計上しています。

No. 5 「物価高騰に対する低所得世帯への支援」

本支援は非課税世帯に 3 万円給付というのが国の定型的なガイドラインですが、一宮市は住民税非課税世帯のみならず所得が低く均等割のみが課されている低所得世帯も追加で対象とさせていただきます。そのため、給付の対象が約 4 万 7,000 世帯となり市内 16 万世帯のうちおよそ 3 割程度の世帯に 3 万円が行き渡る見込みです。

No. 6 「宅配ボックスの設置に対する補助」

3 年前にコロナ禍が始まった時に、ネットショッピングが増えたことで接触機会を減らす観点から宅配ボックスの設置に対する補助を行いました。今回は当時の上限 5 万円を増額し 6 万円にしています。物価高騰やドライバーの労働体制 2024 年問題もあり、家屋・マンションなどの新築が増えていることから、この地域で再配達により減少するよう力を入れてまいりたいと思います。

No. 7 「給食食材等の高騰に対する支援」

小中学校については、給食のメニュー拡充に必要な値上げ（小学校で 250 円から 285 円、中学校で 285 円から 325 円）について、今年度 1 学期は値上げをせず、その値上げ分は市が負担をしました。今回 2 学期も新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金（以下、「コロナ交付金」）を活用し保護者の負担額は上げないままメニューは充実させるというものです。保育園等にも同じように、親御さんたちの負担が増えないようにということで支援をさせていただきます。

No. 8 「小中学校等への内線電話の導入」

保育園・小学校・中学校は建物が古く内線電話がありません。先日、長野県で事件がありました。例えば保育園や学校で暴力的な事件があった時、職員室まで走ったり大声で叫んだりするのが現状です。その対策として、昨年市内の小学校と中学校の各1校（丹陽西小学校、大和中学校）にIPフォンを配備したところ、教室、職員室、保健室などでの連絡手段として大変好評でしたので、この度コロナ交付金を活用して市内全ての小学校と中学校に内線電話を導入させていただくものです。

No. 9 「新型コロナウイルスのワクチン接種支援事業」

一定回数以上の接種を行った診療所に対して、接種回数に応じて支給する交付金を、引き続き行います。

No. 10 「省エネ家電製品の買替に対する補助」

昨年度実施した補助事業です。10万円から15万円の製品でしたら2万円を、15万円以上のものなら3万円を補助するなど、購入費用の一部を補助することで省エネ家電製品が広がるよう支援を行うものです。

No. 11 「ごみボックスの設置に対する補助」

昨年度実施した補助事業です。町内会のごみボックス設置に対して補助を行い、カラス対策などに好評だったことから引き続き行います。

No. 13 「キャッシュレス決済ポイント還元事業委託料」

一昨年、昨年と実施した事業で、今年度もコロナ交付金を活用し実施します。No. 2で紹介しました「BISHU FES.」について、TGCのタイミングを使って1ヶ月間、会場周辺だけでなく地域全体での消費の活性化を狙い、キャッシュレス決済ポイントの還元事業を行うこととしました。

No. 17 「水道基本料金無料化事業」

コロナ交付金を活用した事業です。9月と10月の検針分2ヶ月分の水道の基本料金を無料にさせていただきます。

以上、本日の説明でございます。

■令和5年度6月補正予算(案)に計上された主な事業

(記者) 入院医療費の無償化を18歳まで拡大について、将来的には入院だけでなく全部の医療費無償化に繋げていきたいということだと思いますが、このタイミングでまず入院に限定した理由と、今後の目標を伺います。

(市長) 財政との兼ね合いもある中で、できるだけ早く子育て支援策として何らかの形あるものを実行したいと考え、入院費だけでも思い踏み込ませていただきました。県内の中核市では、豊田市さん・豊橋市さん・岡崎市さんも同じ状況で、無償化は入院費だけです。豊橋市さんだけが今年度(令和6年1月予定)から通院費の無償化も含まれます。今後、少しずつですが、子育てに関わる費用負担の軽減について、市としてで

きることをしっかり進めていければと考えています。ちなみに7年前、小中学生までを無償化の対象に含めた時は、年間で3.6億円ほど市の負担が増えました。高校生に相当する16歳から18歳までの通院費も無償化の対象に含めようとする、毎年億レベルの予算が必要になります。もちろん市の財政も、これからコロナの回復や地域の開発が進み、税収増が見込める要素もあるため、もう少し状況を見ながら着実に前に進めることができればと考えています。

(記者) 無償化拡大の開始時期は？

(市長) 令和5年10月から、入院医療費の無償化を18歳まで拡大させていただきます。

(記者) 宅配ボックスの設置に対する補助について、過去の実施状況と実績について教えてください。

(市長) 令和2年度と3年度に実施しました。令和2年度は、想定件数が200件で実績は217件でした。令和3年度は、想定件数が100件で実績は92件でした。令和2年度・3年度ともにコロナ交付金を活用しました。トラックドライバーさんの2024年問題や新築の増加など、いろいろな社会経済活動が活発化しているので、もう一度やってみようということで6月補正予算に計上しました。

(記者) 小中学校等への内線電話の導入目的は？

(市長) 今まで無かったのが不思議かもしれません。何かあったらクラスの誰かに職員室に伝えに行かせるという昭和時代の小中学校と変わらない光景が続いていました。昨年度、丹陽西小学校と大和中学校の小中学校各1校ずつにモデル導入として設置したところ、大変好評だったと教育関係者から聞いています。

(記者) 一宮七夕まつりについては、どのように実施する方針ですか？

(市長) 実際に実務を担っていただく商店街や商工会議所の皆さんで話し合ってもらっていますが、コロナで規模縮小や工夫をして良かったところは残していこうという話になっています。そのひとつが露店の出し方です。コロナ前は、全部の地域で商店街や歩道にずらっと露店を並べていましたが、残飯やゴミの処理などでいろいろトラブルがありました。コロナ禍で露店を出せるエリアを制限したところ、評判が良かったため、このようなすみ分けは、おそらく続くのではないかと私は見えています。

(記者) 基本は、コロナ以前に戻したいという思いでしょうか？

(市長) そうですね。パレードに関しては、コロナ以前は、木曾川高校のブラスバンド部や、中学生などに出てもらっていました。今回、子どもが集まって密ができる状況がどこまで受容されるかを開催直前まで見極めなければいけないという議論をしているとの報告を受けています。盆踊りについては、人数制限を設けずにできるだろうと聞いています。

(市長) 最後に、本日、報道発表を行った「マイナポイント支援窓口によるマイナポイントの誤登録」について説明させていただきます。市内で他人の口座情報や医療情報が誤って紐付いていたというトラブルは把握していません。ただマイナポイント付与に

ついて手違いがあり、委託事業者さんからトラブルに巻き込まれた方に金銭的補償をしています。一連の経緯については総務省にも相談し、プライバシーや本人の名誉などに関わる話ではなく、経済的な話として関係者間で収まっていたものとの認識でした。昨日、急きょ北九州市さんと総務省さんが発表したということで、一宮市でも去年と今年に起きたことが総務省発表の90団体で113件の中に入っているという認識のもと、今日、報道発表をさせていただきました。